

こころざしをカタチにする。

企業版ふるさと納税

で

豊田市の“変えるミライへの挑戦”を
応援していただける企業を募集。



豊田市
TOYOTA CITY

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

豊田市は持続可能な開発目標（SDGs）
を支援しています。

カーボンニュートラル



ウィズ・アフター・コロナ



デジタル化



都市と山村の共生



多様化する社会課題の解決に向け企業等とのパートナーシップを図りながらチャレンジします！

豊田市 企業版ふるさと納税に関するご提案

こころざしをカタチにする。

企業版ふるさと納税 とは…

豊田市の事業に対しご寄附をいただくことで、取組の充実や、企業様と豊田市の新たな関係構築につなげる制度です。

企業のメリット

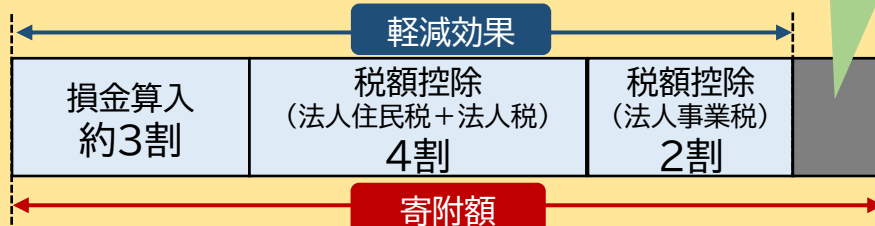
地方創生への貢献
(CSRの向上)

企業名のPR
(市ホームページでの企業名公表など)

税制優遇

令和6年度末
まで！※

最大税額9割軽減で、企業の実質負担は約1割！



税制優遇を受けながら、社会貢献につなげられます！
(注)豊田市内に本社(主たる事務所又は事業所)が所在する場合は本制度の対象外です。

※令和4年5月時点



豊田市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

〔企業版ふるさと納税制度に関するお問い合わせ〕

企画政策部 企画課
(担当:山田・丹羽)

TEL : 0565-34-6602
MAIL : kikaku@city.toyota.aichi.jp



【キーワード】山村振興 / 交通安全 / 産業振興

FIA世界ラリー選手権(WRC)を いかした地域まちづくり事業

イチオシ
PICK UP!

関連するSDGsゴール



地域資源の価値を高め、「WRCのまち」豊田市をつくる

事業目的

2022年に12年ぶりに日本で開催されたWRC(民間主催)を2023年に引き続き、2024年以降も日本で継続開催できるよう豊田市が主催します。
また、「WRCのまち」のシティブランドを構築し、豊田市のまちづくりにいかします。

主な取組内容

- (1)関係者と共に豊田市が競技主催者となり、「FIA世界ラリー選手権 日本大会(WRC)」を開催します。
- (2)WRCをいかして、「山村振興」、「交通安全の推進」、「産業の振興」を図ります。
- (3)モータースポーツで鍛えられた車両の安全性や環境技術が市販車へ反映されることで、クルマの魅力向上へとつなげていきます。



ラリージャパン2023

〔事業担当者コメント〕

WRCは、FIA(国際自動車連盟)が主催している世界耐久選手権(WEC)、フォーミュラー1世界選手権(F1)と並ぶ3大モータースポーツのひとつで、50年の歴史を誇るラリー最高峰の大会です。愛知・岐阜での開催2年目となった2023年は、豊田スタジアムで2台同時走行となる特設の競技コースを設置し、大勢のお客様が日本中から集まりました。今後も豊田市での継続開催を目指し、「WRCのまち」として構築されれば、非常に価値の高い地域資源となります。一緒にWRCに深く関わって頂ける方のご支援をお待ちしています。

〔本事業に関する問い合わせ〕

生涯活躍部 ラリーまちづくり推進課
(担当:川合・高島)

TEL : 0565-34-6950
MAIL : rally@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 まちづくり / 地域活性化 / 観光 / こどもの学び / 資源の循環 / 国の重要文化財

100年に1度の^{よみがえ}大修理で甦る!! 重要文化財 旧鈴木家住宅復活プロジェクト

イチオシ
PICK UP!

関連するSDGsゴール

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナシップで
目標を達成しよう



時を経てもなお、多世代で集える重要文化財の活用を目指して。

事業背景・目的・目標

歴史ある足助の町並みの中心部に位置し、かつて足助一の商家として栄えた「紙屋」鈴木家。その鈴木家が暮らした江戸時代から明治時代にかけて建造された16棟もの建物は、平成25年に国の重要文化財に指定されました。現在は、この文化的価値の高い建物を日本の未来に伝えていくための保存修理工事を進めています。

主な取組内容

- (1) こどもたちに質の高い教育環境を提供するための、施設整備に取り組みます。
- (2) 足助の町並みをより魅力あるまちにしていくための、空間づくりに取り組みます。
- (3) 文化財の活用に新たな活路を見出すための挑戦に、皆さんと共に取り組みます。



旧街道から見た旧鈴木家住宅の景観

〔事業担当者コメント〕

近年、文化財の活用は内閣府や文化庁などの組織をはじめ、国を挙げて取り組むべきものとして、試行錯誤が行われています。放っておけば、日々失われていく文化財建造物が多い社会情勢のなかですが、未来を担うこどもたちが「先人たちが築きあげてきたもの」に学ぶ機会をつくっていくことができるかどうかは、現在を生きる大人たちの手にかかっています。ぜひ豊田市と共働で、これまでにない国指定重要文化財の活用事例を一緒につくりあげていきましょう!!

〔本事業に関する問い合わせ〕

生涯活躍部 文化財課足助分室
(担当: 井上・木原)

TEL : 0565-62-0609

MAIL : bunkazai-asukebunshitsu@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 脱炭素 / 再生可能エネルギー / 産業振興 / 脱炭素経営 / モビリティ / 教育

脱炭素政策パッケージ

関連するSDGsゴール



省エネ、創エネ、蓄エネで、脱炭素社会を実現する

事業背景・目的・目標

- (1) 産業発展と両輪で、脱炭素社会の実現を目指します。
- (2) 脱炭素社会実現に向け、再エネ、次世代自動車の普及を目指します。

主な取組内容

- ①再エネ地産地消 ②スマートハウス普及 ③次世代自動車普及
- ④環境学習施設eco-T ⑤次世代自動車充電インフラ
- ⑥中小企業創エネ設備補助 ⑦脱炭素経営スクール
- ⑧人工林健全化 ⑨先進技術実証



豊田市における脱炭素社会実現を目指した取組

〔事業担当者コメント〕

脱炭素実現に向けた様々な政策を実施しています。産業、運輸、業務、家庭の脱炭素化支援と、森林吸収源の最大化、先進技術の開発支援など、豊田市の地域特性を踏まえた脱炭素化の取組を推進しています。

脱炭素化は行政だけで実現できるものではなく、市民、企業の皆さまと連携して取り組む必要があります。豊田市と共に、脱炭素社会実現に向けた取組みを実践し、発信しましょう！

〔本事業に関する問い合わせ〕

企画政策部 未来都市推進課
(担当: 播磨・太田)

TEL : 0565-34-6982
MAIL : hybrid-city@city.toyota.aichi.jp



【キーワード】山村振興 / 高齢者支援 / モビリティ / コミュニティ /

里モビLIFEプロジェクト

関連するSDGsゴール



山里における自由・安全・安心な移動をつくる

事業目的

公共交通機関が限られた山里において、高齢者ができるだけ長く、自らの意思で、自由に、安全に、安心に移動できる社会を実現し、ひとりひとりの生涯の生活の質を高め、持続可能な地域社会を目指します。

主な取組内容

- (1)車の運転に不安を抱えている方を対象に、山里で使いやすいよう工夫した超小型モビリティ「里モビ」をリースすることで、移動の支援に取り組みます。
- (2)「里モビ」に乗って出かけるツアー等を企画し、「移動できること」に加えて「でかけること」や「集まること」といったコミュニティの活性化に取り組みます。

〔事業担当者コメント〕

里モビLIFEプロジェクトは、都市部のシェアリングサービスで使用されていた超小型モビリティを、山村地域での新たな交通手段として活用しています。

都市と山村をつなぎながら、高齢者の安全安心な移動と健康を守るこの取組は全国的にも珍しく、過去には国土交通省の交通政策白書等でも取り上げられています。

地域の笑顔と、安心して暮らせる持続可能な地域社会を、共に支えていただける事業者の皆様からのご支援を、お待ちしております。



「里モビ」の写真

〔本事業に関する問い合わせ〕

企画政策部 未来都市推進課
 (担当:太田・播磨)

TEL : 0565-34-6982
 MAIL : hybrid-city@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】山村振興 / いなか暮らし / 官民パートナーシップ

おいでん・さんそんセンター事業

関連するSDGsゴール

8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



「いなか」と「まち」が支えあって豊かになるミライをつくる

事業目的

企業・人・地域、それぞれの多様な担い手が持つ強みやニーズを持ち寄り、「つながり」を通じて、都市部においても、山村部においても人々が暮らしを楽しむ社会の実現を目指します。

主な取組内容

- (1)「おいでん・さんそんセンター」が、企業・人・地域をマッチングし、それぞれの強みを持ち寄った、地域の課題解決等に向けた具体的なアクションをコーディネートします。
- (2)「いなか暮らし総合窓口」を運営し、移住希望者へのプロモーションや、移住希望者の住まい・暮らし等に関する総合的な相談の受け入れを実施します。



企業研修を兼ねた地元地域との「耕隆ファーム」

〔事業担当者コメント〕

豊田市は、2005年の合併により、都市部と山村部が共存する多様性豊かな都市となりました。これを、都市と山村それぞれの特色を生かすことができる豊田市独自の強みと捉え、これまで約300件の様々なマッチング・コーディネートを実現してきました。

寄附による活動のご支援だけでなく、実際にフィールドに入り、活動してくださる企業様も大歓迎です。ぜひ我々とともに、持続可能な地域づくりに向けたチャレンジに取り組みましょう！

〔本事業に関する問い合わせ〕

企画政策部 企画課
 (担当: 日野・市川)

TEL : 0565-34-6602

MAIL : kikaku@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 山村振興 / 観光 / 産業振興 / 地域おこし

香嵐溪100年プロジェクト事業

関連するSDGsゴール



紅葉の名所「香嵐溪」をミライに引き継ぐ

事業背景・目的・目標

香嵐溪が整備後100年を迎えるにあたり、生育環境の悪化や樹勢の低下が懸念されています。そこで、「もみじ」の景観の質の維持・向上を図るとともに、100年先まで地域資源のひとつとして継承されるための仕組み作りを目指しています。

主な取組内容

- (1) 樹木整備、散策路や休憩施設等のハード整備を行います。
- (2) ハードの利活用、里親募集等の資金調達及び関係人口の増加に向けた取組み、住民主体のソフト事業等を行います。
- (3) 行政、住民の協働による樹木、林床の維持管理を行います。



東海地方屈指の紅葉の名所「香嵐溪」

〔事業担当者コメント〕

香嵐溪は、11月のもみじまつり期間にはおよそ40万人の観光客が訪れますが、もみじの老木化、担い手不足など、様々な課題を抱えています。

寄附による活動のご支援だけでなく、プロジェクトへの参加も大歓迎です。紅葉の名所である香嵐溪に関わっていただける方をお待ちしています。

〔本事業に関する問い合わせ〕

地域振興部 足助支所

(担当: 中野・西村)

TEL : 0565-62-0601

MAIL : asuke-shisho@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】山村振興 / 産業振興 / 文化伝承 / 生きがい / まち守り / 自然との共生

稲武地区養蚕製糸文化伝承事業

関連するSDGsゴール



「 繪服(にぎたえ) 」 調進の歴史を守る



←養蚕についてより
詳しい情報はこちら

事業目的

伊勢神宮・熱田神宮 献糸と大嘗祭「繪服」に使われる唯一無二の存在である三河国の「赤引糸」を将来にわたって継承していくため、稲武ならではの養蚕・製糸の普及・振興策を住民と共有し、早急な後継者の発掘・育成を目的としています。

主な取組内容

- (1)にぎたえプロジェクトでは、養蚕ブランディング、新商品試作等を行い、稲武地区のオンリーワンの誇りを活かす取り組みを行います。
- (2)稲武KAIKO学では、蚕の新しい可能性について、全国の養蚕関係者を講師としてお招きし勉強することで、稲武地区の蚕業の可能性について模索しています。



稲武の養蚕の様子と「繪服」

〔事業担当者コメント〕

天皇の即位後、最初行われる新嘗祭「大嘗祭」で使用する絹織り物「繪服」の調進は、令和元年も行われました。しかし、担い手である「まゆっこクラブ」の高齢化や、マネージメントを古橋会のみで行っていることなどから、次の大嘗祭まで技能継承がされるかが心配されます。この文化を守り、経済も成長させていくチャレンジを応援して下さる企業を募集しています。

〔本事業に関する問い合わせ〕

地域振興部 稲武支所

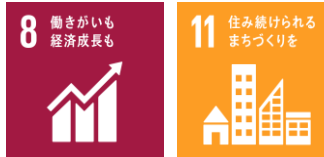
(担当:柄澤・後藤)

TEL : 0565-82-2511
MAIL : inabu-shisho@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 山村振興 / 地域おこし / 観光 / 世界ラリー選手権(WRC) / 旭地区 / コミュニティ /

「旭高原元気村」施設再整備事業

関連するSDGsゴール



高原ならではのアウトドア体験をお届けします

事業目的

旭地区の観光拠点施設である「旭高原元気村」の魅力向上を図ることで、自然環境を生かした観光・交流を生み出し、旭地区全体の活力を高めます。また、地域住民の地域への愛着を育むことで、住み続けたい旭地区の実現を目指します。

主な取組内容

世界最高峰のラリー競技、世界ラリー選手権 フォーラムエイト・ラリージャパン(WRC)の会場として使用するため、宿泊施設等を整備します。



旭高原元気村 野外ステージ(整備か所ではありません)

〔事業担当者コメント〕

愛知高原国定公園内に位置する旭高原元気村は、夏にはキャンプやバーベキュー、冬にはそり滑りが楽しめ、年間約8万人が訪れるアウトドア施設です。旭高原は昭和29年に村営の牧場としてスタートし、時代とともに姿を変えながら地域の観光拠点として親しまれてきました。

今回、WRCの来客にも対応できるよう施設整備を行います。アウトドアを楽しみながら観戦できる施設として活用していくため、お力添えください。

〔本事業に関する問い合わせ〕

地域振興部 旭支所
 (担当: 岩瀬・山田)

TEL : 0565-68-2211

MAIL : asahi-shisho@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 スポーツ/地域スポーツクラブ/スポーツ教室/人生100年時代/生き生き/夢・希望

地域スポーツ推進事業

関連するSDGsゴール



～子どもから高齢者まで～地域でスポーツに親しむ機会を創出！

事業背景・目的・目標

本事業は、地域スポーツを振興し、スポーツを身近なものにしていくことで、様々な世代がスポーツを通じて楽しく健康で生き生きと活躍し、まちの活性化につながることを目的とします。

主な取組内容

- (1) 地域スポーツクラブや大学・企業と連携した子ども向けのスポーツ教室を実施します。
- (2) 地域スポーツクラブの運営やスポーツ指導者の養成を支援します。
- (3) スポーツ推進委員による市民の運動能力向上及び認知症予防に取り組みます。

〔事業担当者コメント〕

人生100年時代。健康寿命の延伸はもとより、全ての世代が生涯を通じて生き生きと輝ける社会の実現が望めます。スポーツは、そうした社会を実現していくための有効なツールのひとつです。また、スポーツは子ども達に夢と希望を与えます。オリンピックやパラリンピアンが多く在籍する市内企業・大学等と連携しながら、子どもたちの未来を豊かなものにしていく取組も実施していきます。ぜひ、ご支援・ご協力をお願いします。



陸上男子100mの元日本記録保持者、青戸慎司氏(中京大学)による小学校での「走り方教室」の様子

〔本事業に関する問い合わせ〕

生涯活躍部 スポーツ振興課
 (担当: 藤村・宇佐美)

TEL : 0565-34-6632
 MAIL : sports@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 公共交通 / 高齢者支援 / 福祉 / 健康 / 生きがい / 運転免許証返納 /

おいでんバス乗り放題！ 「おでかけパス70」推進事業

おでかけパス70で、高齢者の生きがいや健康づくりを応援する

事業背景・目的・目標

おでかけパス70は、豊田市在住で70歳以上の方ならどなたでも購入できます。中心市街地から山間部までを繋ぐ、おいでんバス全12路線が定額で乗り放題となります。おでかけパスの利用により、高齢者の外出する機会を増やし、生きがいや健康づくりの促進を目指します。また、車に乗らなくても生活できる環境づくりを推進することで、高齢者のバス利用を促進し、交通事故の減少を目指します。

主な取組内容

- (1) 出前講座(おいでんバスの乗り方教室)を開催し、健康につながる「かしこいバスの使い方」について、おでかけパスのPRと併せて高齢者などへお伝えしています。
- (2) 運転免許証更新時のチラシ配布など、おでかけパス70の販売促進を行っています。

〔事業担当者コメント〕

誰でも自由に移動することができる社会の実現に向けて、高齢者を対象に、おいでんバスの定額乗り放題を実施しています。バスに乗ることは、意外にも歩くことにもつながっており、健康の増進が期待できるほか、人との交流機会が増えることにより、生きがいづくりの促進にも寄与しています。また、高齢者が安心してバスを利用できるようになれば、運転免許証の返納を後押しすることができ、結果的に高齢者の交通事故の抑制に繋がります。ぜひ御支援をお願いします。

関連するSDGsゴール



「おいでんバス」の写真

〔本事業に関する問い合わせ〕

都市整備部 交通政策課
 (担当: 赤川・岡野)

TEL : 0565-34-6603
 MAIL : koutsu@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 子ども / 少人数教育 / ICT教育

生き抜く力を育む学校教育の推進

関連するSDGsゴール



ミライを担う次世代の「確かな学力」を育む

事業目的

少人数学級の実施やICT活用に取り組み、授業が分かり、学校に行くのが楽しいと思う子どもたちが増えることを目指します。児童生徒の学びや経験を深めることで、社会が激しく変化する中で能動的・主体的な力を発揮できる子どもたちの育成を目指します。

主な取組内容

- (1)市独自の少人数学級の実施、非常勤講師・補助員・非常勤養護教諭の配置等を行い、子どもたち一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育を推進します。
- (2)ICT環境を整備するとともにICTを活用した授業づくりを行い、個別最適な学びと協働的な学びを推進します。



学習用タブレットの活用の様子

〔事業担当者コメント〕

教育を取り巻く社会状況が激変する中で、学校教育はこれまでにない変革の時を迎えています。この変革を、子どもたち一人ひとりの可能性を最大に引き出すこと、そして子どもたちが自分と社会の明るい未来を切り拓くことにつなげていきたいと考えています。

教育のデジタルトランスフォーメーション及び一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育の推進は、変革の切り札です。子どもたちと共に未来の扉を開きます。

〔本事業に関する問い合わせ〕

教育部 学校教育課
 (担当:安井)

TEL : 0565-34-6662
 MAIL : gakkou_k@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】 森林環境保全、出前講座、ボランティア活動支援

森林環境教育・ボランティア活動支援事業

関連するSDGsゴール



11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



15 陸の豊かさも守ろう

～持続可能な共働による森づくり～

事業背景・目的・目標

- (1) 森林の大切さについて市民等の理解を促し、「森の応援団」を増やすことで、持続可能な森づくりを目指します。
- (2) より多くの市民等への理解につなげるため、企業等の森林に関わる活動や学校教育との連携を図り、共働による森林環境教育の実現を目指します。
- (3) 間伐ボランティアを育成して将来の森づくりの担い手を育てることで、市民等との共働による森づくりにつなげます。

主な取組内容

- (1) 「とよた森林学校」・「とよたモリジャム」として、市主催講座の開催に加え、企業等の森林に関わる活動の発信、支援を行います。
- (2) 学校教育活動と連携した出前講座を開催します。
- (3) 間伐に関心がある人や、間伐によるボランティアに興味がある人に対する講座の開催と、間伐ボランティアの活動を支援します。

〔事業担当者コメント〕

森林環境教育・ボランティア活動支援事業は、持続可能な森づくりを進める上で、将来の森づくりの担い手育成として必要不可欠なものです。寄附でのご支援はもちろんのこと、社会貢献活動の一環として森林環境教育につながる講座等を実施いただける事業者も募集しています。ぜひ豊田市と共働で、持続可能な森づくりにチャレンジしませんか。



間伐ボランティア初級講座(豊田市主催)

〔本事業に関する問い合わせ〕

産業部 森林課
 (担当:梅村・深見)

TEL : 0565-62-0602
 MAIL : shinrin@city.toyota.aichi.jp

【キーワード】相互理解/意思疎通/福祉/障がい/手話/点字/要約筆記/コミュニケーション支援

障がい理解と意思疎通の推進事業

関連するSDGsゴール



誰もが自分の意思を伝え合える豊田市を目指します！

事業背景・目的・目標

誰もが安心して自分らしく生きられる社会(地域共生社会)の実現を目的とし、障がい者など配慮を必要とする人への理解を深め、お互いに意思を伝え合える豊田市を目指します。(豊田市は、障がいの特性、言語、文化等のちがいから生じる隔たりの解消を図っていくために、令和3年4月に「相互理解と意思疎通に関する条例」を制定しています。)

主な取組内容

- (1)心のバリアフリー推進講座を開催し、障がいに関する理解促進に取り組みます。
- (2)手話通訳、音訳・点訳等に親しむ機会を創出し、意思疎通の人づくりに取り組みます。
- (3)コミュニケーション支援ボードやICT機器を活用し、意思疎通の環境整備に取り組みます。

〔事業担当者コメント〕

障がいがある人もない人も分け隔てなく、誰もが安心して自分らしく生きられる社会の実現に向けて、全市を挙げて取り組んでいます。お互いのちがいを認め合い、一人ひとりがどんな配慮ができるかを考え、行動することで、多くの笑顔が生まれると思います。

「誰一人取り残さずに情報を伝える豊田市」、「配慮を必要とする人も自分の意思を伝えられる豊田市」を目指し、取組を進めていきます。ご支援いただける事業者様を募集しています。



市民向け手話教室



市民向け点字教室

〔本事業に関する問い合わせ〕

福祉部 障がい福祉課
 (担当: 荒川、長谷川)

TEL : 0565-34-6751 FAX : 0565-33-2940

MAIL : shougai_hu@city.toyota.aichi.jp